

第78回国民スポーツ大会

我らかく戦う

期 日 令和6年9月5日(木)～9月17日(火)
令和6年9月21日(土)～10月1日(火)

会 場 佐 賀 県 佐 賀 市 他

公益財団法人 北海道スポーツ協会

我 ら か く 戦 う

第78回国民スポーツ大会(会期前実施競技)

競 技	種目／種別	評価	予想順位・得点	戦 い の 展 望	有 望 選 手 ・ チ ー ム	特 記 事 項
水 泳	競泳	3	個人3位・6点 (黒田 一瑳／100m自由形) 個人6位・3点 (伊藤 瑠飛／50m自由形) 個人3位・6点 (坂田 怜央／100m自由形) 個人3位・6点 (坂田 怜央／50m自由形) 個人3位・6点 (坂田 怜央／200mバタフライ)	少年男子Aでは黒田 一瑳(札幌大谷高等学校2年)が100m自由形の3連覇がかかる。河野 通虎(北海道札幌東高等学校3年)が200mバタフライ、伊藤 瑠飛(北海道札幌真栄高等学校2年)が50m自由形での上位進出も期待。また4×200mリレーでは、決勝進出を狙う。4×100mメドレーリレーにおいても上位進出が期待でき、成年男子4×50mリレーでは昨年度3位から優勝を狙えるメンバーが揃う。	黒田 一瑳 (札幌大谷高等学校2年・コナミ札幌) 河野 通虎 (北海道札幌東高等学校3年・JSSあいの里) 伊藤 瑠飛 (北海道札幌真栄高等学校2年・JSS清田) 坂田 怜央((株)オカモト) 成年男子4×50mリレー(坂田・甲斐・市村・山本)	黒田 一瑳(札幌大谷高等学校2年)は、昨年、一昨年国体の100m自由形で2連覇中。また黒田 一瑳・河野 通虎(北海道札幌東高等学校3年)は(公財)日本水泳連盟派遣事業で今年8月にオーストラリアで行われるジュニアパンパシフィック選手権の日本代表である。
	OWS	4	個人1位・8点 (蝦名 愛梨／女子5km)	パリオリンピック日本代表・蝦名 愛梨(自衛隊体育学校)を中心として、厳しい戦いになると思われる。終盤のスプリントが勝負となる。本人も「今年こそ優勝を」と申していますので期待しています。	蝦名 愛梨(自衛隊体育学校)	蝦名 愛梨(自衛隊体育学校) 2022,2023年度日本選手権OWS10km連続優勝 2024年度日本選手権(競泳)1500m自由形優勝 2018~2023年度国民体育大会(現国スポ)連続出場／前年度2位の成績
サッカー	成年女子	1	団体5位・5点	まずは初戦突破が第一の目標となる。厳しい戦いが予想される一方、今大会にあたっては、単独チーム(札幌大学)での出場となる為、選手の特徴及びチームの戦術等が浸透していることは大きなアドバンテージとなる。これらをうまく活用し、まずは初戦に合わせて、あわよくば上位進出を目指していきたい。	玉川 実奈(札幌大学4年)	
	少年男子	2	団体8位・5点	戦う姿勢を前面に出して試合に臨む。全員守備で粘り強く守り、ピンチを脱したい。また、一部の選手に依存する形ではなく、共通認識を持った全員攻撃でチャンスを作りたい。	大石 蓮斗(札幌大谷高等学校2年) 玉懸 悠翔(北海道札幌東高等学校2年) 桑原 智琉(札幌創成高等学校1年・北海道コンサドーレ札幌U-18)	大石 蓮斗(札幌大谷高等学校2年)連続出場
	少年女子	1	団体5位・3点	選手が躍動し、攻守において主導権にぎりながら、これまで積み上げてきたものを表現できるよう戦いたい。今大会を通して、選手が成長し今後の北海道の女子サッカーを牽引する存在へ。 チーム北海道、全員で戦い抜きます。それぞれの長所を存分に発揮し、アグレッシブに戦います。	高橋 凜(北海道札幌東高等学校1年) 加藤 綾華(北海道教育大学附属旭川中学校3年)	2年連続出場する選手が、一ノ瀬 茉月(札幌市立藻岩高等学校2年)、笹森 日和(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校2年)、本間 夢衣菜(北海道文教大学附属高等学校1年)の3名います。
テニス	全種別	1	成年男子ベスト32 成年女子ベスト32 少年男子ベスト16 少年女子ベスト32	成年の部では大学生が3名選出されました。若さを生かし思い切り挑みたい。	少年男子の小柳 遥人(東海大学付属札幌高等学校3年) 全国インターハイで2回勝利しベスト32。高校1年生から3年連続で国スポ(国体)に参加。その経験に期待する。	小柳 遥人(東海大学付属札幌高等学校3年) 2024年インターハイベスト32
ローイング	成年男女	3		全種目で準決勝以上の進出を目指し、その中からポイント獲得を目指す。		杉木 良平(砂川市立病院) 男子シングルスカル種目は、現役の医師が選手として出場します。
	少年男女	3	個人1位~4位 (林 和弘／シングルスカル)	男子シングルスカルの林 和弘(北海道網走南ヶ丘高等学校3年)は、今年3月に行われた全国選抜大会で8位入賞となったため、今大会における上位入賞が大いに期待される。	林 和弘(北海道網走南ヶ丘高等学校3年)	林 和弘(北海道網走南ヶ丘高等学校3年) 全国選抜大会8位 特別国体に続き連続出場

競 技	種目／種別	評価	予想順位・得点	戦 い の 展 望	有 望 選 手 ・ チ ー ム	特 記 事 項
ビーチバレーボール	少年男子	3	団体8位	雪解け時期からビーチへ通い、強化指導者とプロトップ選手との練習により、体づくりと基礎練習を積み重ねてきた。実戦的な練習が少なかったものの、北海道の不利な条件を短期間の集中と強化練習、日常生活での高い意識が継続できるように取り組んだ。その成果が発揮できたら良い戦いが期待できる。あとは暑さ対策等の環境の違いにより早く慣れて試合を迎えたい。		工藤 楓奏(北海道伊達開来高等学校3年) 特別団体から連続出場。第74回大会に兄が出場の兄弟出場。
	少年女子	1		チームの目指す姿である「誰かを勇気づけることのできるバレー」「みんなに感動してもらえるバレー」「誰もが幸せになれるバレー」を表現することに徹して明るく楽しくプレイする。		
体 操	成年男子	3	団体5位	昨年6位入賞メンバーが、5名中4名残っている為、ミスのない演技が出来れば昨年を上回る成績を残すことを期待する。		
	成年女子	3	団体8位	昨年8位入賞メンバーが、5名中4名残っており、少年の代表が追加されているためミスのない演技をして入賞を目指す。		
	少年男子	2	団体18位	中学生と高校1年生が中心の若いチームなので、来年に向けての良い経験の場としたい。予選通過を目標とする。		
	少年女子	4	団体10位	各種目2名の失敗者が出ないように演技をし、順位を上げたい。	二階堂 日和 (札幌大谷高等学校2年・エルム体操クラブ) 3月の全国高校選抜で、種目別段違い平行棒7位入賞	
	新体操 (少年男子)	5	団体2位	完璧な演技をして、上位成績を収める。		令和5年度インターハイ団体5位 令和5年度全国選抜大会団体3位
	新体操 (少年女子)	3	団体23点 個人18点	個人での得点を、更に団体ではミスなして、演じきることを目標とします。	森下 璃子(北星学園女子中学高等学校3年) 2年連続全道チャンピオンで経験豊富な選手である。個人の得点としては23点を取れる選手である。	
	トランポリン	3	個人3位 (山崎 凌空/男子) 個人8位 (吉田 美麗/女子)	男子は去年同様、山崎 凌空(金沢星稜大学3年)のベストの点数が出れば、上位に食い込むことは確実である。 女子は吉田 美麗(北見藤高等学校2年)が今回初出場ということで、近々の試合での点数からしか予想できないが、充分決勝に進出する可能性はあると思われる。	山崎 凌空(金沢星稜大学3年)	山崎 凌空(金沢星稜大学3年) 世界年齢別大会に2022年2023年と2年連続日本代表 2022年個人銅メダル 2021年全国高校選手権準優勝 国スポ(国体)2大会連続出場 前回5位入賞 吉田 美麗(北見藤高等学校2年) 2023年全国高等学校トランポリン競技選手権大会出場 今大会初出場
セーリング	全種別	3	個人5位・4点 (松苗 幸希/成年女子) 個人総合25位・14点	少数精鋭で入賞を目指す。	成年女子 ILCA6級 松苗 幸希(北海道セーリング連盟)	成年男子ILCA7級に工藤 海翔(立命館大学4年)、 少年男子ILCA6級に工藤 匠海(立命館慶祥高等学校1年)が兄弟での出場

競 技	種目／種別	評価	予想順位・得点	戦 い の 展 望	有 望 選 手 ・ チ ー ム	特 記 事 項
ソフトテニス	成年男子	3	団体8位・5点	内海 大輔(CLOSSTY HOLDINGS)・榊原 健太(CLOSSTY HOLDINGS)ペアを軸に若い学生のカで勝利を掴みたい。	岡田 侑也(明治大学2年) 昨年のインカレ大学対抗で優勝に貢献し、今大会も活躍が期待できる。	
	成年女子	2	団体8位	大学生中心の若いチームであり、来年以降を見据え、一戦一戦成長しながらの戦いになります。初戦で勢いに乗れるかがカギになります。		
	少年男子	4	団体8位・5点	今年度の北海道チャンピオンペアである永田 侑也(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校3年)・岩城 啓太(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校2年)を中心に、全国でもトップクラスの実力がある西 拓郎(北海道科学大学高等学校3年)のシングルスで、上位進出が可能と考える。	西 拓郎(北海道科学大学高等学校3年)	西 拓郎(北海道科学大学高等学校3年)・小杉 昂道(北海道科学大学高等学校3年)ペアがベスト32。
	少年女子	3	団体6位・15点	16チーム出場という一番出場数が少ない年の開催ということもあり、初戦が一番重要となる。組み合わせ次第によっては上位進出も狙うことができる。	石垣 陽菜(札幌龍谷学園高等学校3年) 藤岡 七星(札幌龍谷学園高等学校3年)	石垣 陽菜(札幌龍谷学園高等学校3年)・藤岡 七星(札幌龍谷学園高等学校3年)はインターハイダブルスベスト16(9位入賞)、ハイスクールジャパンカップダブルス3位入賞。
ライフル射撃	全種別	3	個人3位/8位・計7点 (柳 あさこ/R3P/R60PR) 個人6位/8位・計4点 (津幡 実乃里/AR60WJ/AR30WJ) 個人6位・3点 (大島 千枝/AR60W) 個人7位・2点 (佐竹 優悟/AP60) 個人8位・1点 (安達 太郎/CFP60) 個人8位・1点 (向山 莉央/BP60WJ) 団体4位・5点 (遠藤 北斗・大島 千枝/ARMix)	女子選手に有望な選手が多い為、皇后杯の8位以内入賞を目指す。	柳 あさこ((医)栄宏会28CliniC) 全国大会での優勝経験もあり、全国レベルの選手である。 遠藤 北斗(札幌国際大学大学院1年)・大島 千枝(北海道医療大学3年) 力をつけている若手のホープで、昨年度の鹿児島国体もMix競技で5位に入賞し、今年度はさらに上を目指せると考える。	柳 あさこ((医)栄宏会28CliniC)は、令和5年東日本ライフル射撃競技選手権大会3位、鹿児島国体8位入賞し、茨城・栃木・鹿児島国体で連続入賞。 遠藤 北斗(札幌国際大学大学院1年)は、令和6年東日本ライフル射撃競技選手権大会3位。 津幡 実乃里(北海道科学大学高等学校3年)は、令和5年全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会5位入賞、鹿児島国体8位入賞。 向山 莉央(北海道科学大学高等学校2年)は、令和5年全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会4位入賞。

競 技	種目／種別	評価	予想順位・得点	戦 い の 展 望	有 望 選 手 ・ チ ー ム	特 記 事 項
剣道	成年男子	4	団体5位	前の2人が1勝1敗出来れば、勝つ可能性は高い。	先鋒の大塩 泰我(北海道警察)は昨年全日本選手権大会に出場している。	
	成年女子	3	団体5位	チームワークの良さを活かして、声掛け合い繋げる試合にしたい。	関川 絢心(北海道警察)は全国大会で常連選手。	
	少年男子	3	団体5位	北海道で選抜された選手であり、先鋒、次鋒戦で頑張って1勝出来れば、5位入賞は出来る。	大洲 卓真(札幌日本大学高等学校3年)は全日本都道府県対抗剣道大会の北海道代表選手で昨年のインターハイで個人戦ベスト16であったので期待できる。	大洲 卓真(札幌日本大学高等学校3年)選手は昨年のインターハイ出場。東海大学札幌高等学校選手は全国大会出場など経験豊富な選手が多い。
	少年女子	3	団体5位	3年生2人、2年生2人、1年生1人の若いチームだが、前から少しでもリードして試合を展開していけるように、チームワークをもって戦う。	日笠 夢愛(札幌日本大学高等学校2年)は全日本都道府県対抗剣道大会の北海道代表選手で、チームを引っ張る役目をもつ。	日笠 夢愛(札幌日本大学高等学校2年)、下野 佑華(札幌日本大学高等学校2年)、小田島 蒼来(札幌日本大学高等学校1年)は今年のインターハイ出場。伊端 紀良良(東海大学付属札幌高等学校3年)は全国選抜大会出場など経験豊富な選手が多い。
カヌー	SL	3	個人8位・1点 (深田 真衣／女子スラロームC-1)	昨年入賞を逃した選手も競技歴が長いこともあり善戦を期待したい。	深田 真衣(北海道大学大学院4年)	
	WW	3	個人6位・3点 (山岡 洋貴／男子ワイルドウォーター)		山岡 洋貴(北海道小樽潮陵高等学校(教))	山岡 洋貴選手(北海道小樽潮陵高等学校(教))は今回で通算15回目の出場となる。
クレー射撃	全種別	4	個人1位・95点 (田畑 篤／スキート) 個人1位・95点 (佐藤 堅司／スキート) 個人総合1位・34点	スキートの2名は全国大会において優勝～6位までの入賞多数である。スキート団体での優勝を目指し、トラップでも8位以内の入賞を目指し、合わせて総合優勝を目指す。	佐藤 堅司(佐藤鉄砲火薬店) 田畑 篤(HAP'1 釧路総合射撃場)	佐藤 堅司(佐藤鉄砲火薬店) 第三次・第四次北海道公式優勝、三重とこわか射撃大会2022年(国体代替)スキート個人・総合団体優勝 田畑 篤(HAP'1 釧路総合射撃場) 第五次北海道公式優勝